ムツゴロウの

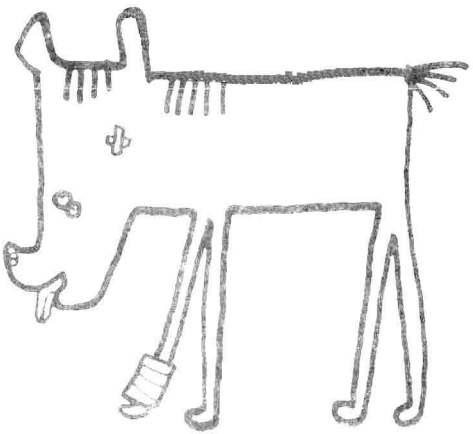
獣医修業

畑　正憲

ソゴロウの

獣医修業

畑　正憲



毎日新聞社

ムツゴロウの獣医修業

定価　六〇〇円

昭和四十八年五月三十日　第一刷
昭和四十九年七月三十日　第八刷

著者　畑　正憲
編集人　浜田琉司
発行人　朝居正彦
発行所　毎日新聞社
〒一〇〇　東京都千代田区一ツ橋
〒五三〇　大阪市北区堂島上
〒四五〇　名古屋市中村区堀内町
〒八〇二　北九州市小倉北区紺屋町

印刷　東京ベル印刷　製本　田中製本

0095-506109-7904

ムツゴロウの獣医修業　目　次

週刊誌を読む豚　7
シャネル作戦　26
シンソー物語　47
身代りジケン　67
実地検修　87
枯葉と虫歯　108

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

抜歯と鉗子　130
負け犬の記　151
セイキの対面　173
完全なる男性　194
実技断章　215
ケンサ万能　236

装幀・イラスト
著　者

ムツゴロウの獣医修業

週刊誌を読む豚

1

春がやってきて氷がゆるみ、福寿草が崖っぷちに整列していた。雪は空に昇って雲となり、青い空をゆっくり旅行している。

私はまだ島で暮していた。この一年で手に余るほど殖えた動物たちに囲まれ、残りすくない島の休日を楽しんでいた。

その動物たちの中で変りものといえば、二月に迷いこんできたカモだろう。正確な種名はビロードキンクロ。全体に黒っぽい体毛を持つ、メス。

これはシバレが一番きつい日、浜で拾ったものである。右の翼が折れ、くちばしには大きな穴

が開いていて、流れる血に赤く染っていた。それを持帰って全員で治療したのだが、正確には治療と言えるかどうかわからない。寄ってたかってホウタイをまき、赤チンを塗り、隙をうかがって喉の奥に魚の身をねじこんだ。

が、元気にはなった。水浴びをし、羽づくろいをし、想像以上の大食漢である。大きな氷下魚(コマイ)を一日に三尾ペロリとたいらげる。骨が折れている翼さえ治れば、仲間と北の方へ旅立ってゆけるだろう。

私を含めた八人の家族がここまで成長するには一年かかった。

私はいわば動物学の専門家で、解剖学から発生学、かなりの知識を詰めこんでいるはずだった。しかしそれは飽くまでも知識であって、息たえだえの動物を前にしてはあまり効力を発揮しなかった。消えかけている生命の灯をかきたてるには、学問よりも、もっと荒っぽい手仕事が必要だった。

一時、時化(しけ)の度に収容される傷ついた野鳥たちが、バッタバッタと死んでいった。その度に嘆き悲しむ女どもを私は叱りとばした。

「嘆くな。よろこべ。もっと殺せ。どんどん殺せ。殺さないものに何がわかるか。十羽や二十羽、目の前で死んだからってちぢこまるな。殺すつもりで拾ってこい」

いささか逆説的な匂いがしなくもないが、今の世では、殺すという作業を味わえるのはごく一部の人たちである。それは一種の贅沢(ぜいたく)でさえある。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

といって、命あるものが大切にされているわけではない。空はよごれ、海には油が浮き、車が年に数万の人に深傷を負わせている。地球上にかつてない生命蔑視の時代だと言える。それでいて、殺すという作業からは遠ざけられている。

私は繰返した。

「殺せ！」

家族は反撥した。

「なに、今度こそ！」

家畜以外の動物を治療しているのが町や村に知れわたり、いろいろの獣や鳥が持ちこまれるようになった。珍鳥、エトロフウミスズメ。エゾフクロウ。瀕死のオオハクチョウも手がけた。

なかには、どうにも手のほどこしようがないほど衰弱しているものもあった。しかし、運びこまれるものの半数以上が、元気にはばたいて自然へと帰ってゆくようになった。

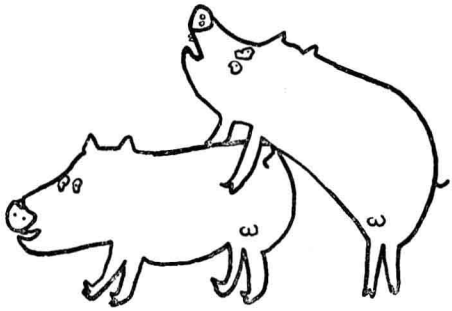
無念だったのはエトロフウミスズメである。すっかり元気になって家族に馴れ、膝の上に乗ってくるようになった時、うずくまって死んでしまった。解剖してみたら、胃の上部、食道の一部にひどい狭窄があった。そこに食物がつまり、気管を圧迫して窒息死したのだ。

自然からこぼれてくる動物には、このような問題児が多い。が、それを手元に置き、僅かな時間であっても、手を加えてゆくのは楽しいものだ。この世にはこうして成功したという記録は多いが、こうしたら失敗したという記録はすくない。私たちはくわしいメモをとっているので、い

ずれ、野生動物の保護に関する資料として、恥をさらしてみようと思っている。
さて、一年がかりで得たものは、そう目新しいものではなかった。弱った生物が持ちこまれたら、まず何よりも先に暖かい部屋に収容する。出血の有無を調べて手当をする。それから強引に食物を押しこんでやる。
ものを食べるようになったら、出来るなら居間に放って置くと回復が早いようだ。人への恐怖感がなくなるし、問題児であった場合などには、異常が起った時に目が届く意味がある。
といった次第で、わが家の面々は本には書いてないさまざまな技術を獲得していった。もう何が運びこまれようと平気である。何本かの手が働いて、生かすか殺すか、自信を持って結論を出すようになった。これで最初の関門を通過したと言える。
だがしかし、まだまだ先がある。元気にするだけではなく、繁殖させ、可能ならば海へ山へ戻してやりたい。そのためには、もっと高度な技術が要る。
現に私は、白い糞をまきちらしながらかけ回るカモの骨折を治療し、大空を飛べるようにしなければならない。
「ボヤボヤしてはおれないぞ」
と、私は呟いた。
この四月から、私は七百町歩の山林や原野や沼を持つ身になり、動物王国の主になる。仲間や手下が増え、病気になるものも続出するだろう。一刻も早く獣医修業の旅に出て、目玉をくり抜

いたり、痔をバッサリ切落す修業をつまねばならぬ。
しかし、それにしては空が青いじゃないか。知合いの獣医がいる都会の空を思うと、私は腰を上げるのがおっくうになるのだった。
その時、
対岸から派手な音をたてて舟がやってきた。前に主婦、後に亭主が乗っているのはこの地方の公式みたいなもので、漁師は夫婦揃って漁に出る。
私は手を振って、
「おーい。元気でしたか」
「ほーい。いい天気でした。網さかけて帰りによるどォ」
その漁師、Tさんが意外な情報をもたらしたのだった。
そもそもTさんは進取の気に富み、浜ではトップクラスのもの識りである。私が島を借りるに際しても、彼の相馬弁が大きな役割を演じてくれた。
「何言ってるだどォ、人がいねえ島に人が住むのはいいことだどォ」
これからの漁師は、年によって漁獲が一定しない海にばかり頼ってはいけない。余力があれば牛や豚を飼い、家の誰が倒れても十分な面倒を見ることが出来る固定収入というものを持っていなければならない。彼はそう主張して、浜で豚を飼っている。
そのTさんが不思議そうに私を見て、

「先生。変だどォ。うちの豚っこは週刊誌読むのじゃなかんべか」
「まさか」
「この前釧路さ行って、古い週刊誌トラックに積んできたけどよォ、半分はエロだべ、娘の目ェついちゃいけねえと豚小屋に捨てただよ。そったらおめえ、豚っこが妙な具合になっちまっただ」
「ほう。雪が降ってるのにさかりでもつきましたか」
「んだ。タネ豚がおめえ、ヒイコラヒイコラ鳴き始めただ」
「ははあ」
と、私はうなずいて、それは暖冬異変のせいだろうと説明しようとした。
するとTさんは、手の甲で赤く酒焼けした顔をつるりとなで、
「そんでよう、タネ豚がタネ豚に乗っかってよう、おっぱじめてからに、どうにもならねえだよォ」
「オスとオスが……」
「んだ。でっかい方のオスがよう、ちっこい方のオスに乗ってよう、腰使って仕方がないでよ。オスとオスならホモだべ。豚っこは獣だから、そったらハイカラなこと知らねえはずだべ。だったらおめえ、週刊誌読んで憶えた他はあるめえ……」
その事件があってから、Tさんの豚は妙な具合になり、小さい方のオスがタネ豚として使いも



のにならなくなったそうである。行動を観察していると、まるでメスみたいになり、大きい方のタネ豚に尻を向けて催促ばかりしているという。

「先生よう、おめえ先生だからよう、こったらことくわしいだべ」

Tさんは押しかぶせるように言った。

「まあね」

私は釣りこまれて肯定してしまった。

「それならよう、うちへきて、オスはオスだと教えて貰えねえべか」

「この私が」

「そうよ。頼むでよ」

否も応もなかった。私はそのままTさんの舟に乗せられ、対岸へと運ばれてしまった。

2

「治してけろよ。お礼はすっからよォ」

「さあて」
「熊っこ飼っててよ、豚っこの病気がわかんねえことあんめえ」
「でもねえ」
「ぶっ叩いてもいいからよォ。いいや、死んだって構わねえ。こったら豚見てたら、こっちの胸までむしゃくしゃするでよ、な、何とかしてくれよォ」
「よしきた。出来るだけのことはしてみましょう」
私は問題の豚を前にして腕組みをした。Tさんが言う通り、その豚はオスとしての行動をまったく忘れ、発情したメスの側へ近づけても反応が鈍いばかりか、どうかすると下に組敷いて貫いたそうな格好をする。
ホモセクシュアルな性行動は、哺乳(ほにゅう)動物ではさして珍しいことではない。特に群れをつくる動物では、一種の行動学的な意味さえ有している。力が弱いものがメス的な行動をとり、強いものが上に乗るのがしばしば観察される。それを見ていると、オスがメスの上に乗るという行動の奥底には、原始的な征服欲があるように思えてくる。
十頭以上の野犬の群れを追跡していた時のことだ。群れのボスが体格のいいメスとつがった。と、その瞬間から、群れの中の幼体の間に奇妙な遊びが流行し始めた。上に乗る行動が何かを理解せず、また、本能にもそそのかされていない子犬たちが、お互いに上になり下になり、性行為の真似をし始めたのである。私は何度か通って、上になる回数と力関係を中心にチェックした

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.